2023年２月期　第３四半期（2022年３月１日～11月30日）

決算説明資料

2023年2月5日～27日 帝国劇場公演

2023年１月12日(木)

東宝 TOHO

Entertainment for YOU

―― 世界中のお客様に 感動を ――

2023年2月期　第３四半期　営業概況

	2022年2月期 （2021年3月～11月）	2023年2月期 （2022年3月～11月）	前期比	増減率
営　業　収　入	168,620百万円	**179,738百万円**	11,117百万円	6.6% ↗
営　業　利　益	28,176百万円	**35,867百万円**	7,691百万円	27.3% ↗
経　常　利　益	29,946百万円	**40,913百万円**	10,967百万円	36.6% ↗
親会社株主に帰属する四半期純利益	20,164百万円	**27,138百万円**	6,974百万円	34.6% ↗

※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較しています。
なお、収益認識会計基準適用の影響額は、当第３四半期連結累計期間の営業収入は12,473百万円減少し、営業原価は8,806百万円減少し、販売費及び一般管理費は3,375百万円減少し、営業利益は291百万円減少し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ294百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は1,250百万円減少しております。

2023年2月期　第３四半期 営業概況

【「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」について】

創立100周年に向けた「長期ビジョン 2032」と3カ年の具体的な施策である「中期経営計画 2025」とから構成される「TOHO VISION 2032 東宝グループ 経営戦略」を2022年4月に策定し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて取り組んでおります。詳細は、こちらをご覧ください。

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、感染の拡大は落ち着き、景気の持ち直しが進んでいるものの当第３四半期においても継続しております。
演劇事業においては、一部演目において、公演関係者の感染により公演中止が発生し、業績に影響を与えました。

【第３四半期決算の概況】

映画営業事業において、新海誠監督最新作『すずめの戸締まり』の興行収入100億円を超える大ヒットや『沈黙のパレード』等のヒットがあり順調に推移したが、『トップガン マーヴェリック』をはじめとした上期の東宝東和等配給作品における収益認識会計基準適用による影響が大きく残り、わずかに減収となったものの、利益は大幅に伸長。（『すずめの戸締まり』の興行収入は2022年12月末時点で108.5億円）
映画興行事業において、緊急事態宣言の発出を受けた前年同期に比べ、事業環境が改善したことに加え、上記の当社配給作品を中心とした大ヒットや『ONE PIECE FILM RED』の続映も業績に寄与し、増収増益。
映像事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」等のTOHO animation作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、動画配信等の多面的展開により好調に推移したが、好調だった前年に及ばず前年同期比で減収減益。ただし、マイナス幅の縮小は進行。
映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、『エリザベート』等が盛況に推移したものの、公演が一部中止となった演目が複数あり、増収となるもわずかに減益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において保有物件が堅調に稼働したことに加え、道路事業が好調な成績を収めたことにより、全体では増収増益。

※新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大規模施設に対する協力金等を「助成金収入」として特別利益に計上しております。

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2022年2月期（2021年3月～11月）	**2023年2月期（2022年3月～11月）**	増減率	2022年2月期（2021年3月～11月）	**2023年2月期（2022年3月～11月）**	増減率
①映画事業	106,865	**115,504**	8.1% ↗	16,328	**23,019**	41.0% ↗
映画営業	29,636	**29,154**	-1.6% ↘	6,986	**10,907**	56.1% ↗
映画興行	40,958	**52,767**	28.8% ↗	488	**5,860**	1100.1% ↗
映像事業	36,270	**33,581**	-7.4% ↘	8,853	**6,252**	-29.4% ↘
②演劇事業	11,904	**13,875**	16.6% ↗	2,455	**2,233**	-9.0% ↘
③不動産事業	47,885	**49,482**	3.3% ↗	12,283	**13,708**	11.6% ↗
不動産賃貸	20,273	**20,937**	3.3% ↗	8,768	**9,044**	3.1% ↗
道路事業	20,324	**21,083**	3.7% ↗	2,972	**3,978**	33.8% ↗
不動産保守・管理	7,288	**7,462**	2.4% ↗	541	**686**	26.7% ↗
④その他事業	1,965	**876**	-55.4% ↘	▲ 35	**165**	―

（単位：百万円）

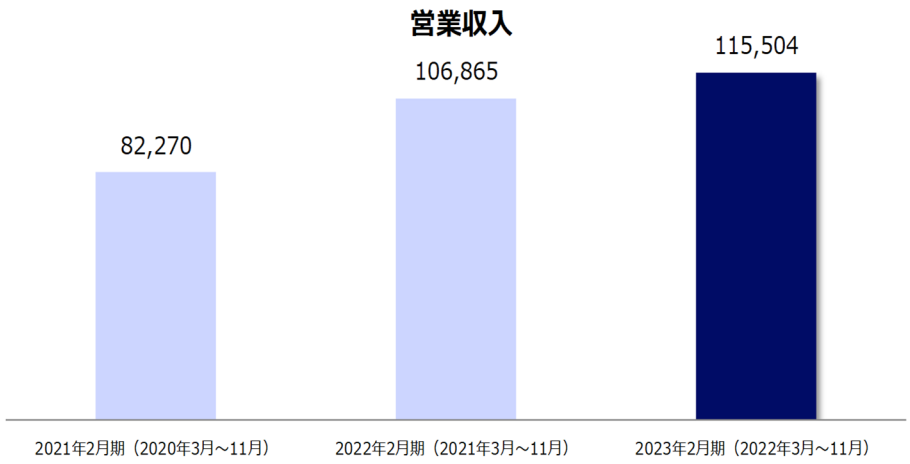
※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。対前年同期比較は、収益認識適用前の前期数値を用いて比較。
なお、収益認識会計基準適用の影響額は、当第３四半期連結累計期間の「映画事業」の売上高は11,433百万円減少、セグメント利益は394百万円減少し、「不動産事業」の売上高は333百万円減少、セグメント利益は108百万円増加しております。

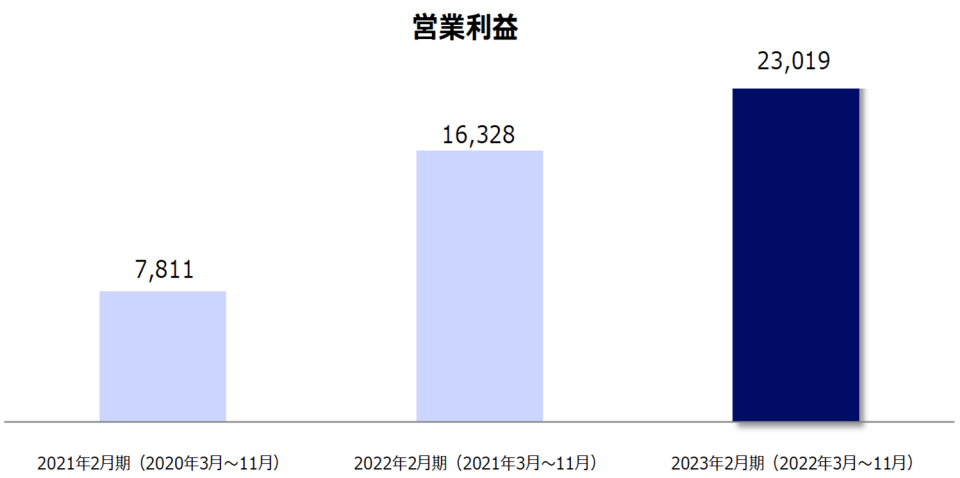
セグメント別業績（四半期別）

	営業収入			営業利益		
	第1四半期（2022年3月～5月）	第2四半期（2022年6月～8月）	第3四半期（2022年9月～11月）	第1四半期（2022年3月～5月）	第2四半期（2022年6月～8月）	第3四半期（2022年9月～11月）
①映画事業	39,528	38,670	37,304	9,230	8,015	5,774
映画営業	11,727	8,240	9,186	4,800	2,957	3,148
映画興行	17,339	21,038	14,389	2,089	3,242	529
映像事業	10,461	9,392	13,728	2,340	1,814	2,096
②演劇事業	4,561	3,787	5,527	737	364	1,131
③不動産事業	17,477	15,756	16,247	5,193	4,328	4,187
不動産賃貸	6,939	6,959	7,037	3,027	3,045	2,971
道路事業	8,048	6,557	6,477	1,942	1,082	953
不動産保守・管理	2,489	2,239	2,732	223	200	262
④その他事業	297	273	305	57	44	62
合計	61,865	58,487	59,385	14,273	11,710	9,882

（単位：百万円）

セグメント別業績【映画事業】





※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。過去２年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

（単位：百万円）

業績分析　（増減要因）

- 映画営業事業では、新海誠監督の3年ぶりの新作となる『すずめの戸締まり』が興行収入100億円を超える大ヒットを記録したことや、『沈黙のパレード』（同29.7億円）等のヒットがあり順調に推移したが、『トップガン マーヴェリック』『ジュラシック・ワールド／新たなる支配者』『ミニオンズ フィーバー』といった上期の大ヒットした東宝東和等配給作品における収益認識会計基準適用による影響が大きく、わずかに減収となりながら、大幅増益。
（興行収入は2022年12月末時点）

- 映画興行事業では、前年同期に比べ事業環境が改善したことに加え、上記の当社配給作品や続映の『ONE PIECE FILM RED』（東映）の高稼働等により、増収増益。

- 映像事業では、アニメ製作事業において、「僕のヒーローアカデミア」「呪術廻戦」「SPY×FAMILY」等、TOHO animation作品の商品化権、動画配信等の各種配分金収入が好調に推移。パッケージ事業では、『劇場版 呪術廻戦 0』の売り上げが好調に推移し、業績に寄与。
出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて『すずめの戸締まり』の売り上げが好調に推移。
映像事業全体として、前年上期の『ウマ娘 プリティーダービー Season 2』のパッケージセールスの反動が大きく、期首からの減収減益は継続しているが、マイナス幅の縮小は進行。

当第３四半期の稼働作品状況

東宝㈱配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
すずめの戸締まり	11月11日	**108.5**
沈黙のパレード	9月16日	**29.7**

（興行収入は2022年12月末日時点　単位：億円）

当第３四半期に公開した東宝㈱配給作品（上記作品を除く）

作品名	公開日
百花	9月9日
七人の秘書 THE MOVIE	10月7日
線は、僕を描く	10月21日

当第３四半期に公開した東宝東和㈱配給作品

作品名	公開日
ビースト	9月9日
ダウントン・アビー／新たなる時代へ	9月30日
バッドガイズ	10月7日
チケット・トゥ・パラダイス	11月3日

第３四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

（単位：円）

	2022年2月期	2023年2月期	前期比
3月	10,122,378,904	4,404,406,530	43.5%
4月	8,940,877,900	7,382,498,300	82.6%
5月	3,087,028,450	8,719,197,550	282.4%
1Q	**22,150,285,254**	**20,506,102,380**	**92.6%**
6月	2,990,184,400	2,616,709,220	87.5%
7月	6,968,430,230	4,161,316,842	59.7%
8月	7,645,189,650	4,150,819,820	54.3%
2Q	**17,603,804,280**	**10,928,845,882**	**62.1%**
9月	4,311,624,310	3,302,171,200	76.6%
10月	2,933,130,920	2,640,663,750	90.0%
11月	2,122,276,010	7,239,618,260	341.1%
3Q	**9,367,031,240**	**13,182,453,210**	**140.7%**

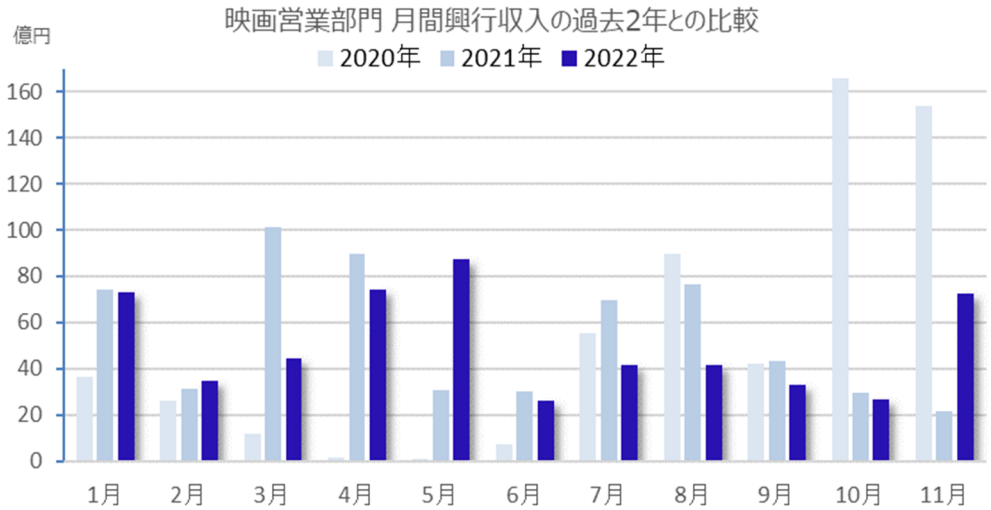
※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

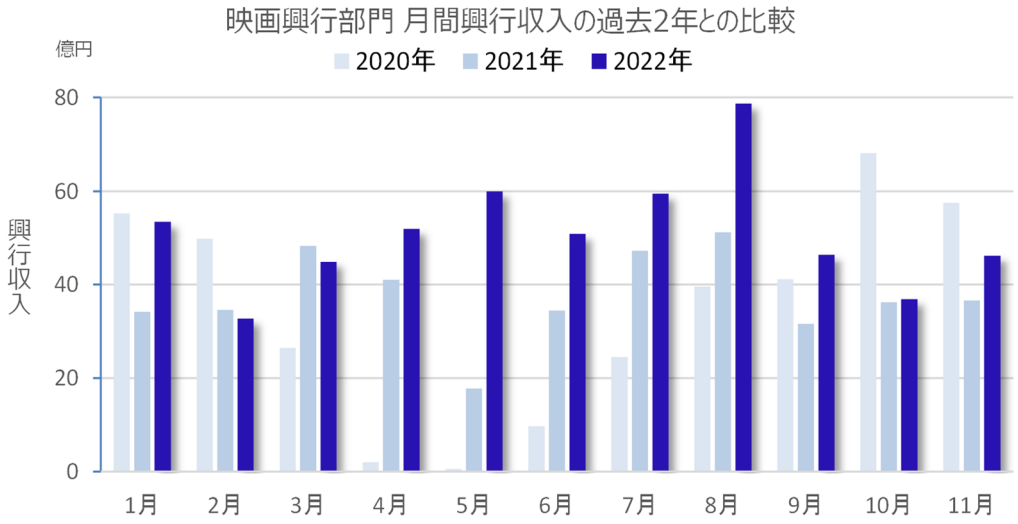
映画興行事業 興行収入推移

（単位：円）

	2022年2月期	2023年2月期	前期比
3月	4,842,139,643	4,494,828,738	92.8%
4月	4,099,777,614	5,203,206,024	126.9%
5月	1,775,416,231	6,004,059,601	338.2%
1Q	**10,717,333,488**	**15,702,094,363**	**146.5%**
6月	3,440,625,871	5,092,951,293	148.0%
7月	4,741,518,384	5,949,442,860	125.5%
8月	5,130,905,686	7,871,720,015	153.4%
2Q	**13,313,049,941**	**18,914,114,168**	**142.1%**
9月	3,155,215,396	4,650,086,943	147.4%
10月	3,621,347,310	3,683,779,646	101.7%
11月	3,653,691,267	4,630,145,099	126.7%
3Q	**10,430,253,973**	**12,964,011,688**	**124.3%**

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

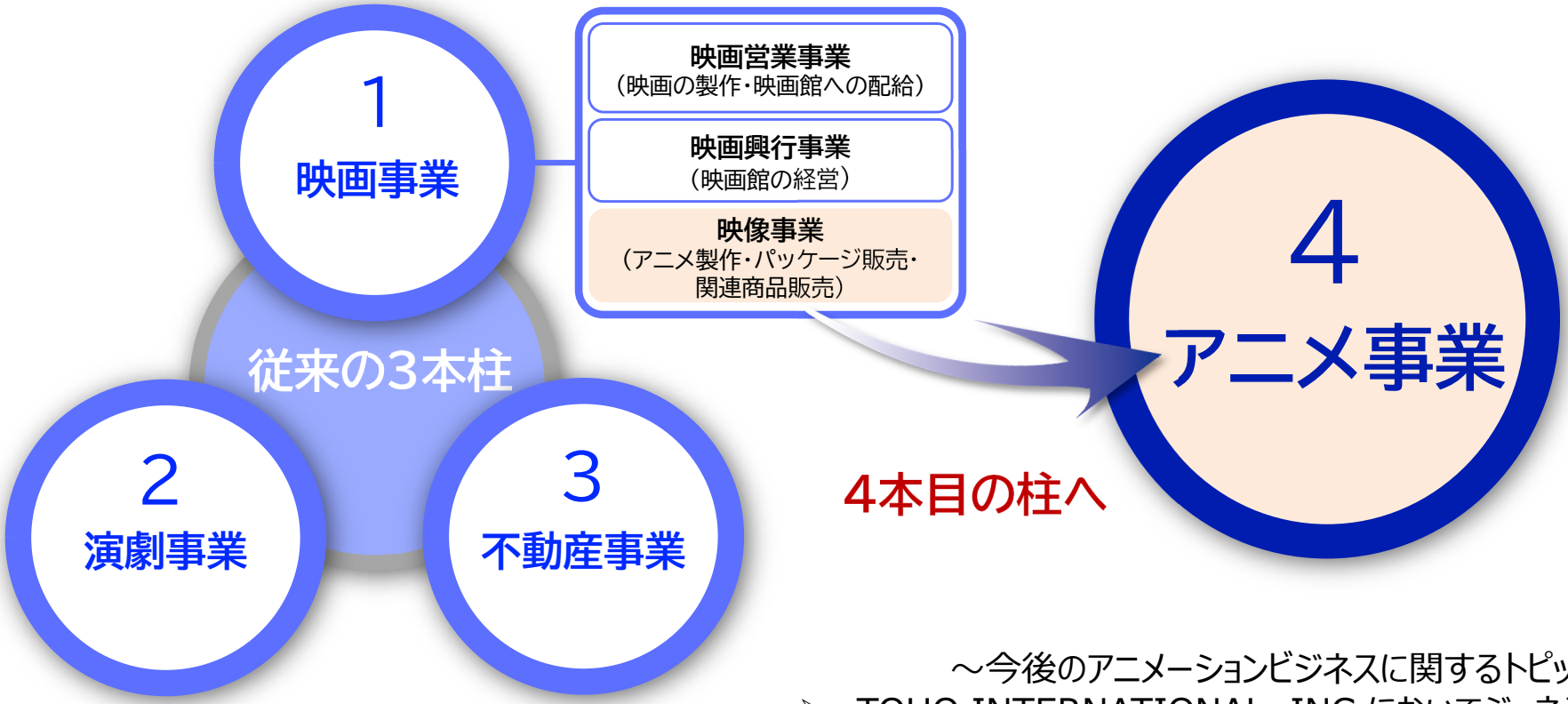




経営戦略とTOHO animation

当社グループは、アニメーションを今後の成長ドライバーと位置づけ、そのアニメ事業を「第４の柱」とすべく、自社ブランドの競争力強化に資源を集中し、多面的・重層的・長期的なビジネス展開を図っております。

事業ポートフォリオの方向性 ～事業の3本柱から4本柱へ～



～今後のアニメーションビジネスに関するトピックス～

- TOHO INTERNATIONAL, INC.においてジェネラルマネジャー、マーケティングディレクターに元クランチロール社のエグゼクティブスタッフが就任し、北米におけるeコマース強化に着手
- アニメスタジオ「TIA」を連結子会社化し、商号を「株式会社TOHO animation STUDIO」に変更とともに制作機能を強化
- 「怪獣8号」「葬送のフリーレン」の取り組みが進行中

TOHO animationの稼働状況

当第３四半期のTOHO animationの主要稼働作品は以下のとおりです。

TOHO animation 当第3四半期（９～11月）の主要稼働作品

作品名	第3四半期の主な収入項目
「僕のヒーローアカデミア」 （TVシリーズ1～6期、劇場用映画3作品等）	動画配信収入（海外）
	動画配信収入（国内）
	商品化権収入（海外）
「呪術廻戦」 （TVシリーズ、劇場用映画）	パッケージ収入
	商品化権収入（国内）
	商品化権収入（海外）
「SPY×FAMILY」 （TVシリーズ）	動画配信収入（海外）
	動画配信収入（国内）
	パッケージ収入

【ご参考】第2四半期（6～8月）

作品名	主な収入項目
「僕のヒーローアカデミア」 （TVシリーズ1～5期、劇場用映画3作品等）	商品化権収入（国内）
	商品化権収入（海外）
	動画配信収入（海外）
「呪術廻戦」 （TVシリーズ、劇場用映画）	商品化権収入（国内）
	動画配信収入（国内）
	キャラクターグッズ販売収入
「SPY×FAMILY」 （TVシリーズ）	動画配信収入（海外）
	動画配信収入（国内）
	パッケージ収入

TOHO animationの状況

TVアニメ「お兄ちゃんはおしまい！」

©ねことうふ・　迅社／「おにまい」製作委員会

2023年1月より毎週木曜23:30よりAT-X
24:00よりTOKYO MX、24:30よりBS11にて放送中
各種動画配信サービスでも配信中

同人誌展開により人気を集め、2019年6月より一迅社「月刊ComicREX」にて連載され、2022年12月には商業版コミックスの累計発行部数は100万部（電子書籍含む）を突破した「お兄ちゃんはおしまい！」。

「アニメ化してほしい漫画ランキング 2020」（Anime Japan主催）第3位/「WEB漫画総選挙 2019」（pixiv・日本出版販売主催）第9位/「次に来るマンガ大賞 2018」（niconico・DAVINCI主催）第5位など様々なランキング上位に入賞された原作がついにTVアニメ化決定。

TVアニメ「お兄ちゃんはおしまい！」Blu-ray BOX上巻は4月19日下巻は6月21日発売予定。

TVアニメ「お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件」

©佐伯さん・SBクリエイティブ／アニメ「お隣の天使様」製作委員会

2023年1月より毎週土曜22:30よりTOKYO MX他にて放送中
各種動画配信サービスでも配信中

原作はコミックスシリーズの世界累計発行部数6,500万部を誇る、週刊少年ジャンプ(集英社刊)で連載中の堀越耕平による大人気漫画。

「小説家になろう」発、GA文庫（SBクリエイティブ刊）の大人気ライトノベル。
累計発行部数100万部を突破し、近年のラブコメ界でトップクラスの人気を博す。
これまでに下記のとおり多くのファンから支持を集めている。
ネット最大級のラノベ人気投票『好きラノ』（21年）　人気投票 第1位
『このライトノベルがすごい！』（22年）女性キャラクターランキング 第1位
『このライトノベルがすごい！』（23年）女性キャラクターランキング 第1位

TVアニメ「TRIGUN STAMPEDE」

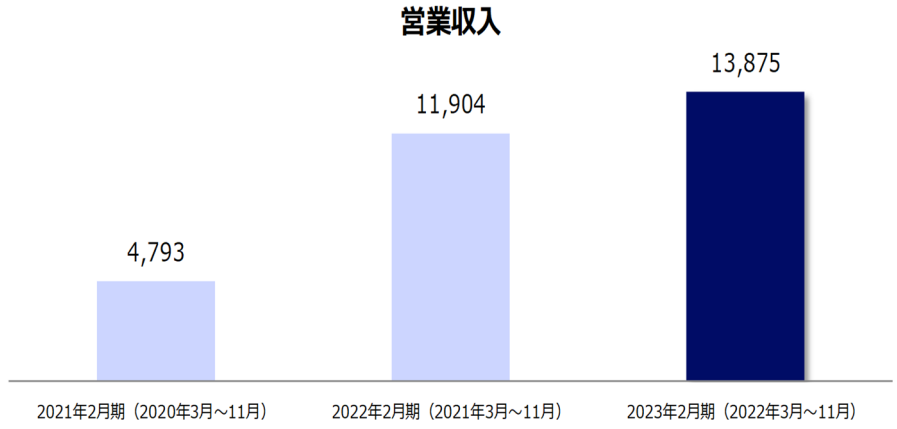
©2023 内藤泰弘・少年画報社／「TRIGUN STAMPEDE」製作委員会

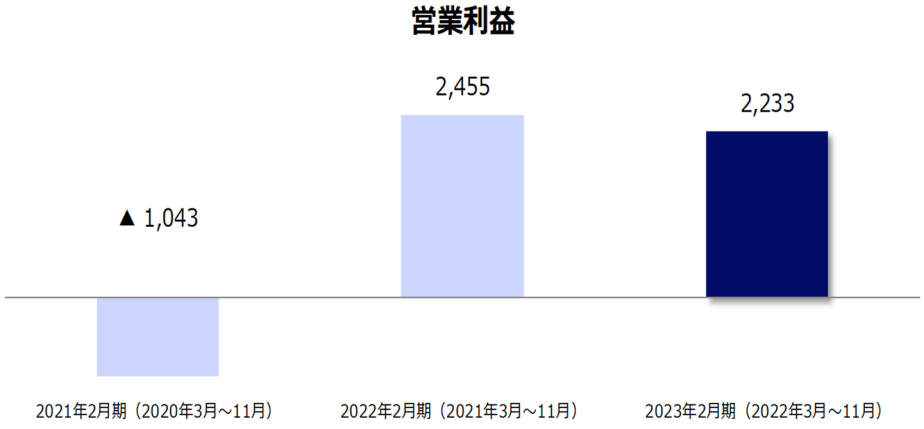
2023年1月より毎週土曜23:00～テレビ東京他にて放送中
各種動画配信サービスでも配信中

「血界戦線」の内藤泰弘が描き、1998年にもアニメ化され世界的人気となった伝説のコミック「トライガン」を、新たな解釈で再構築した《オリジナル新作アニメ》。原作は全世界累計発行部数1,000万部超、日本SF界最高の栄誉である星雲賞を受賞し、今なお国内外に多くのフォロワーを有する。

日本随一のCGアニメスタジオ・オレンジが制作を手掛け、若き鬼才・武藤健司監督、ハリウッドで活躍するコンセプトアーティスト・田島光二氏、「ソードアート・オンライン」シリーズの主役で知られる松岡禎丞氏（主人公 ヴァッシュ・ザ・スタンピード役）ら豪華スタッフ＆キャストが集結。Anime Expo@米ロサンゼルス、Anime NYC@米ニューヨーク等の世界最大級のアニメイベントでも喝采を浴びた。

セグメント別業績【演劇事業】





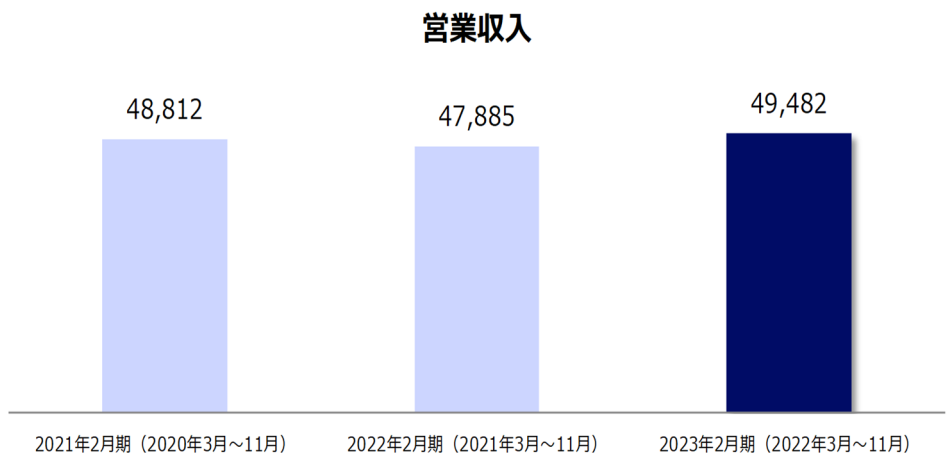
※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。過去２年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

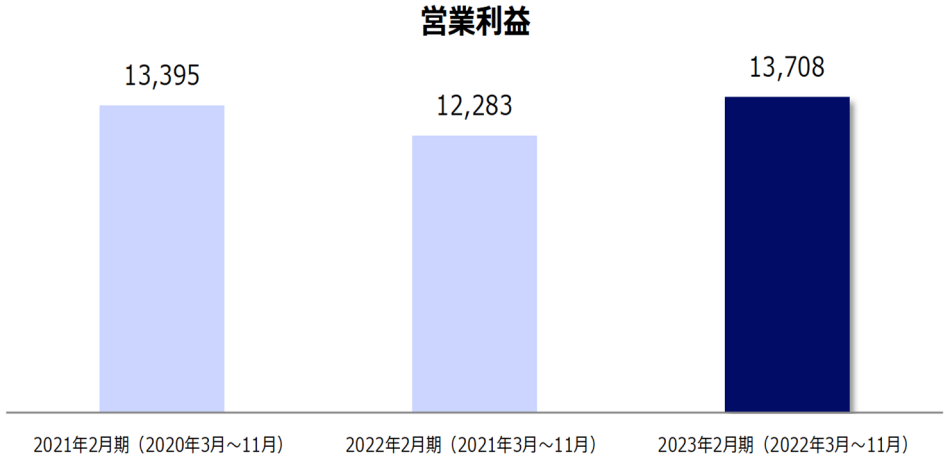
（単位：百万円）

業績分析　（増減要因）

- 帝国劇場では、『DREAM BOYS』（9月公演）、『エリザベート』（10～11月公演）が盛況。
  シアタークリエでは、『モダン・ミリー』（9月公演）、『アルキメデスの大戦』（10月公演）、『The Fantasticks』（10～11月公演）等を上演。
  日生劇場では、『ジャージー・ボーイズ』（10月公演）を上演。東急シアターオーブでは、『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』（11月公演）を上演。東京建物 Brillia HALLでは、『ヘアスプレー』（9～10月公演）を上演し、大入り。
- 東宝芸能㈱では、所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、前年同期に比べ事業環境が改善し、上記のような動員力のある公演を行うことができたものの、新型コロナの影響で一部公演中止となった演目が複数発生したため、増収となるも減益。

セグメント別業績【不動産事業】





※当期期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用。過去２年との比較は、収益認識会計基準適用前の前期数値を用いて比較。

（単位：百万円）

業績分析　（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件が引き続き低水準の空室率で推移し、減賃要請への対応も縮小したため、増収増益。
- 道路事業では、公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めた結果増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理㈱・東宝ファシリティーズ㈱において、新規受注獲得の取り組みや経費削減に努め、増収増益。

業績及び配当予想

■2023年2月期連結業績予想（2022年３月１日~2023年２月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円．銭
2023年２月期（予想）	**240,000**	**42,000**	**45,000**	**32,000**	**181.90**
（ご参考）2022年2月期実績	228,367	39,948	42,790	29,568	167.24

※当期より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、連結業績予想は当該会計基準適用後の金額となっていることから、対前期増減率は記載しておりません。

※直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

■配当予想

	第１四半期末 円 銭	第２四半期末 円 銭	第３四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2023年2月期(予想)	**—**	**20.00**	**—**	**20.00**	**40.00**
（ご参考）2022年２月期実績	—	17.50	—	27.50（特別配当10円含む）	45.00

※当期より、「中期経営計画 2025」で公表しましたとおり、株主還元の新たな数値目標として従来の基本的な水準であった年間配当金35円から年間配当金40円（上期20円 下期20円）へ、ベースを変更しております。

※直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社　総務部　広報・IR室
TEL:03-3591-1214　　Mail:pr_ir@toho.co.jp